

# 4少年の長い旅

世界で12億人を越えるといわれるカトリック信徒の頂点に立つローマ法王が11月24日、長崎市を訪れる予定です。地元長崎の信徒たちはもちろん、世界的にさまざまな影響力をもつ法王の訪問は、県民、国民にとっても大きなニュースです。

ところで、今から約430年前の16世紀後半、長崎を出発し、約3年がかりでヨーロッパのバチカンにわたり、現地で当時のローマ法王に会った4人の少年がいたことを知っていますか？ 歴史の教科書にも登場する「天正遣欧使節」のことです。

長崎総合科学大の学生20人が先月、「長崎4青年の足跡をたどる旅」と題し、ローマ法王庁があるバチカンなどで海外研修をしました。学生たちの現地での様子や使節の歴史を紹介します。

(中村修二)

## 天正遣欧使節

1582年 2月	長崎港を出港
3月	マカオ着。風を待つ
83年 12月	マラッカ海峡をへてインド着
84年 8月	ポルトガルに到着
11月	スペイン国王の歓迎を受ける
85年 3月	イタリア入り バチカン宮殿でローマ法王グレゴリウス13世に会う ローマ市民権を与えられる
86年 4月	ポルトガルから帰路につく
87年 5月	インドに到着
(7月)	豊臣秀吉によるバテレン追放令
90年 7月	長崎に帰港



広めるために

1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが鹿児島に上陸

し、日本にキリスト教を伝えました。その後、教育のため現在の南島原市に神学校「セミナリオ」が建てられました。そのセミナリオの一

しかし、4人がバチカンに行ったおかげで、当時あまり知られていなかった日本文化などが西洋に知られることになりました。

1582年、4人は長崎港を出発し、2年半後にポルトガルに到着。スペインを経て85年にバチカンに入り、ローマ法王に会いました。とても歓迎されたそうです。90年、当時日本にはなかった活版印刷機などを持って長崎に戻りました

が、キリスト教をめぐると日本の状況は大きく変わっていました。豊臣秀吉のバテレン追放令(87年)で宣教師らが迫害を受け、中浦ジュリアンも1633年に処刑されました。ほかの3人も苦難の生涯を終えました。

### 活版印刷機

2期生に、伊東マンショ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルチノがいました。年齢は現在の中学生と同じ13、14歳。この4人が九州のキリシタン大名の代理として使節に選ばれたのです。ローマ法王に会う目的は、日本にキリスト教を広めるための援助をしてもらうためです。約8年間にわたる長い旅になりました。



オリンピコ劇場にある天正遣欧使節が描かれた壁画



ファルネーゼ宮殿を見学する学生

## 長崎総合科学大生 現地で歴史学ぶ

海外研修に参加したのは長崎総合科学大工学部工学科建築学コースの3年生です。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に登録されたこともあり、伝統的西洋建築や長崎ゆかりの歴史について学ぼうと、現地を訪れることにしました。



カトリック教会の総本山、バチカンのサンピエトロ大聖堂前で記念写真に納まる長崎総合科学大の学生ら

9月9〜17日の日程で、カトリック教会の総本山「サンピエトロ大聖堂」やピサの大聖堂、使節4人を描いた壁画が残るオリンピコ劇場などを見学しました。

研修を終えた濱村駿さん(21)は「日本の木造建築とは異なり、れんがやコンクリートを使った教会などは曲線的で柔らかい印象。自由な発想を、日本の建築デザインに取り入れたいと思った。いろんな場所でのローマ法王の存在の大きさを感じた」と感想。大川朝妃さん(21)は「建物のスケールの大きさや、長い歳月をかけて築き、芸術性の高い内部の装飾などに刺激を受けた。私たち以上に4人は衝撃を受けたので」と振り返りました。

長崎とゆかりの深いローマ法王。1981年以来、2度目の長崎訪問となる今回は、爆心地公園などで平和へのメッセージを発信する予定です。どんな内容になるのか、世界も注目しています。